

令和3年度 さいたま市立海老沼小学校 自己評価書

校長 宮本江津子 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「児童の学力・学習状況」において、個別最適な学びを実現するために、主に算数科で追求することを学校課題研究の主題として実践を行う。また、児童一人ひとりの状況を把握し、実践や研究の成果を生かして、児童の基礎アップを図る。G・Sについては、ICT機器を活用し、児童が楽しく取り組めるような授業展開を図る。潤いの時間では、児童がコミュニケーションをとる上で必要なことについて、体験を通して学べるよう、資料や展開の工夫を図る。
- (2) 「児童の安全・安心」において、児童が安心して登校できる学校、いじめ・不登校ゼロを目指し、児童理解に努めるとともに教職員間の連絡・相談体制を密にしながら、積極的かつきめ細やかな生徒指導と教育相談を組織的に行っていく。
- (3) 「地域と連携した学校安全」において、学校運営協議会準備委員会にて、学校を含めた「地域の安全」について熟議し、実施可能なものから少しずつ取組を始めていく。
- (4) 「教員の授業」において、個別最適な学びを実現するために、主に算数科で追求することを学校課題研究の主題として実践を行う。また、教科担任制の導入に伴う体制づくりについても研究を積み重ねる。指導方法の工夫や研究の実践成果だけでなく、「よい授業」についてのアンケート結果を生かして、指導力の向上を目指す。
- (5) 「学校における働き方改革」において、学年ごとに月あたり2度以上のハッピーデーを設け、定時退勤することを目標とする。業務のしわ寄せが他にいかないように、学年ごとに持続可能な業務改善について検討することとする。

2 評価結果について

- ・「授業に進んで取り組んでいる」について肯定的に回答した児童が91%となっている。教員が日々、工夫・改善しながら授業を展開していると考え。一方、教員の指導力の向上や学習活動や体験学習を充実について肯定的に回答した保護者は約90%となっている。コロナの影響がある中で、教員の取組を肯定的に見てくださっている。
- ・「ルールを守る」「安全に気を付ける」について肯定的に回答した児童はそれぞれ約92%、約95%に上っている。昨年度の学校課題研究に引き続き、今年度についても、教職員の日頃の学級での指導が児童の意識向上につながったと考える。「いじめや差別をしない」については、94%の児童が肯定的に回答している。年間を通した「いじめ撲滅」の取組が結果に表れたと考える。
- ・「よい授業」のアンケート結果の学校平均は、授業マネジメントが17.6、基礎アップが17.3、授業スキルが17.3、児童生徒の活動が16.7と、どの因子も前回のさいたま市平均値を上回っている。
- ・「働き方改革」については、教職員が肯定的な回答は約80%にとどまっている。肯定的な回答でない20パーセントの教職員を含めて、学校一丸となって、働き方改革に取り組む必要がある。特に、教職員によって、抱える業務が偏らないように配慮したい。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・業前の時間を用いて、国語と算数の基礎基本を身につける取組を継続する。学年に応じた学習プリントやドリルを用い、繰り返し基礎基本の定着を図る。ICT環境を最大限活用し、学習活動を工夫することで、児童が自分で見通しを立てたり、新たな学習方法を見出したりすることができるように、引き続き指導方法について研究し、改善を図っていく。
- ・いじめ防止への取組は、引き続き迅速かつ誠意をもって、児童や保護者と丁寧に対応していく。必要に応じて外部機関との連携を図りながら、組織的に進めていく。地域と連携した学校安全については、学校運営協議会準備委員会で熟議を積み重ねて、できることに着手していく。
- ・タブレットの利用については、保護者からご意見をいただくこともあった。使用のルールや方法について精査し、児童や保護者に分かりやすく伝えていく。
- ・業務改善については、他校の実践や他業種の取組など、本校で取り組めそうなものについての情報を集め、教職員に諮り、持続可能な取組となるものを模索していく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。